

会長の挨拶 10 制度としてのクラブ（アメリカにおける三大奉仕クラブ…その1）

社交クラブと奉仕クラブの間の相違は、奉仕クラブの方が一段と管理組織や個々の会員の責任概念が強化される点にあるが、しかし他方奉仕クラブを軍隊等の統制団体と比べると統制の要素がずっと稀薄足らざるを得ないのである。それだけに奉仕クラブの管理運営は難しいものとなる。

・アメリカにおける三大奉仕クラブ

アメリカでロータリークラブが一般奉仕クラブとして誕生したのが1906年の後半のことである。そしてこの運動がクラブ例会その他の会合を通じての会員のアイディアの交換の一つの柱とし、更にはその交換されたアイディアが会員の精神生活を向上させ、これが職場その他の社会生活を通じて社会一般に還元されるという実体的論理構造が明確に説かれたのが1915年のことである。

もちろんのこと、ロータリー運動が全米のみならずヨーロッパや他の地域にも拡大して行きつつあった時、一般社会の人々の側からの運動への参加の一つ大きな障害はロータリーの柱である一業一会員制であった。一名のロータリアンがある職種の代表として入会を認められたということは、当該地域社会の同一職種の全職業人がロータリー運動に参加できないということを意味する。この点は一頃かなり重要視された点であって、かなりの批判がロータリーの内部においても、これに加えられたのである。一つは、ロータリーの会員選考が特定地域社会の特定職業人全体乃至過半数の意思表示の手続きとは無関係に、ロータリークラブの会員の推薦によって行われるということに対して、ロータリアンが当該地域社会の代表的職業人であるという点を否認しようとするという態度に成って現れる。

続きは次回にします。

（小堀憲助著 『ロータリー思想の理論構造』より引用）